

平成 26 年度
事業報告書

旭 川 福 祉 園

就労継続支援B型事業

第 二 旭 川 福 祉 園

生活介護事業

就労移行支援事業

障害者支援センター

きたのまち

平成26年度 事業報告書

I. 運 営 状 況

就労継続支援B型事業所旭川福祉園及び多機能型事業所第二旭川福祉園は、公正な運営を原則として、自立支援給付費により厳正且つ適切な運営にあたりました。

施設の利用者状況は、旭川福祉園が就労継続B型定員40名・第二旭川福祉園が就労移行支援事業 定員12名、生活介護事業定員28名 計40名、移行支援での利用期間が終了し、法人内での移動がありましたが、定員を満たしている状況であり、安定的な運営となっております。

II. 旭川福祉園

就労継続B型事業

平成26年度の就労支援事業収益は28,607,789円というように、前年度の29,414,673円から806,884円の減収になりました。利用者工賃は14,706,681円と昨年度より395,548円の増となりました。就労継続支援B型事業所として、作業中心の支援を行ってまいりました。また、利用者の強い要望もあり行事・余暇活動・体力増進にも力を入れてまいりました。

- (1) 印刷作業・農耕につきましては、職員は元より利用者中心に考え作業に取り組んでまいりました。
- (2) 職場実習では、北海道療育園が通年で10人(第一・第二・第三・第六病棟にそれぞれ2人、第四・第五病棟にそれぞれ1人)が、病棟内の清掃ならびに衣類の整理等の業務を請負しました。

また、障害者福祉センター「おぴった」は毎週月曜日を休日として、火曜日から日曜日まで2人体制でローテーションを組み、清掃業務を請け負いました。

認知症のグループホーム「ほーぷ」の高齢者対応型共同生活介護事業所と、ディサービスにて2名の利用者が週2回清掃や環境整備を行う作業を請け負いました。

近文リサイクルプラザでは、週2回7名がローテーションを組み、布や紙等の選別作業を請け負いました。

- (3) 箱折りと贈答品に関しては、障がいの重い利用者にとって、依然として大事な作業になっています。今後も受注拡大につとめます。

(4) その他

利用者の特徴に合わせ、実習・園内の作業等において能力が発揮できるようにしてまいりましたが、今後も更に発展するように支援を続けてまいります。

Ⅲ. 第二旭川福祉園

生活介護事業・就労移行支援事業

平成 26 年度作業総収益は、12,569,248 円（生活介護 5,114,237 円＋就労移行 7,455,011 円）となり前年度 16,090,153 円より 3,520,905 円の減収となりました。利用者工賃は 8,442,896 円（生活介護 3,553,933 円＋就労移行 4,888,963 円）と前年度より 662,998 円の減となりました。

生活介護は、保護者・利用者さんからの強い要望もあって体力増進又は余暇活動をプログラムに沿って行い、作業だけにとらわれない日中活動を行ってまいりました。また就労移行では、就労に向けての基礎作りと職場実習、個別支援を行ってまいりました。

(1) 作業支援

紙工・シール・ティッシュの下請け作業、シルク印刷・喫茶「ぼぷら」での販売、野菜作りを行い、個々の適性に合わせ支援を行い、作業意欲の向上と、コミュニケーション能力の発達につながりました。

(2) 生活介護事業

植物を育てる喫茶の準備をするなどの役割活動を通して生きがいを重視した支援を行いました。また講師を招いてリハビリ講習を受けました。文化活動として壁新聞作り・音楽活動、社会見学・体験諸行事などを通じて主体性を発揮して頂きました。今後も感情豊かに自分らしい生活を作って頂くように支援を続けてまいります。

(3) 就労移行支援事業

北海道療育園・高齢者グループホーム・障害者福祉センター・近文リサイクルプラザ等の職場実習を通じ、一般就労に必要な技術向上の訓練を行いました。またハローワーク・就労支援関係機関と連携し、定着支援を行いました。

(4) その他

生ごみ発酵剤「ボカシ」と、給食の煮干し・魚類を原料に加えた肥料を製造し畑の土作り用として、春の野菜苗の販売時期と、冬を向かえる秋の季節を中心に販売いたしました。

IV. 諸行事・諸活動

- (1) 利用者が一番楽しみにしている研修旅行では、アンケート等に沿って3コースを設定し、下記の内容で予定通り実施致しました。

✽第一班 登別、ニセコ方面 (5月28日～5月30日)

・2泊3日の日程で、利用者25名が参加致しました。天候にも恵まれ、洞爺湖遊覧船や小樽市街散策などの観光と共に温泉地での宿泊で時間的にもゆとりある旅行で利用者の方にも喜んでいただけました。

✽第二班 札幌、小樽方面 (6月12日～6月13日)

・1泊2日の日程で、利用者24名が参加致しました。

若干の雨模様でしたが、工場見学や災害体験(防災センター)、トンボ玉制作と利用者の方も色々な体験が出来た旅行となりました。

✽第三班 美瑛方面 (5月23日)

日帰りの日程で、利用者26名が参加致しました。

天気にも恵まれ、残雪模様の十勝岳連峰を眺めながら散策し、ゆっくり温泉につかりしばし贅沢な時間を過ごす事が出来ました。

- (2) 小行事では利用者さんに行先の希望をとり、少人数で焼肉を兼ねたドライブ、動物園見学、買物体験、日帰り温泉、企業見学をそれぞれ行い、楽しんでもらいました。
- (3) 地域住民へのサービス
ふくしえんまつりでは、利用者自治会中心に模擬店の販売員を利用者さん主体で行い、農産物・作品の販売・模擬店・フリーマーケット等を通じて地域の住民の方々や関係各機関との交流を深め、旭川福祉園のPRをしました。
- (4) バイキング料理
クリスマスパーティー(12月)・開園記念(2月)職員総出で料理を作り、この日は好きなバイキング料理を自由に食べてもらいました。
- (5) その他
旭川市交通安全対策課に依頼して、交通安全講習会を実施し、利用者の交通安全に対する意識の啓発を図りました。

V. 健康管理

嘱託医による健康診断を春と秋の年 2 回実施し、利用者の健康管理には十分な配慮をしているところでありますが、その結果、肥満が多いとの指摘がありましたので食事の配慮はもとより、昼食後に散歩を含めた各種スポーツによる支援を実施致しました。

VI. 苦情解決

利用者の苦情に関しましては、どのような要望・苦情に対しても拝聴し、十分な注意と配慮を怠りませんでした。
その結果、支援員の普段からの適切な係わりもあって、苦情はありませんでした。

VII. 運営費

運営費につきましては、自立支援給付費及び補助金により、厳正かつ適切に運営いたしました。

VIII. 短期入所事業

地域で生活するため又、親の都合、家庭の事情によりショートステイを利用される方が増えています。

IX. 日中一時支援事業

在宅の障がい者や帰省する高等養護学校生が地域で有意義に生活できるように、平成 18 年 10 月より旭川市と近郊の市町村から委託を受けてサービスに努めてまいりました。

X. グループホーム花咲

定員 4 名で認可を頂いております。自立した生活を目指して、あるいは家庭の事情や親無き後、入所される皆さんが暖かい雰囲気の中で安心して頂ける様にしています。現在 4 名の利用者が生活しています。

XI. 今後の動向について

今後共、サービス等利用計画に基づき個別支援計画を立て、利用者の人権を尊重した支援をして参ります。

職 員 の 状 況

平成 27 年 3 月 31 日現在

旭 川 福 祉 園 (就労継続支援 B 型事業)

管理者(施設長)(兼務) 1 名 サービス管理者責任者(兼務) 1 名
職業指導員(常勤・非常勤、専従・兼務) 7 名
生活支援員(専従) 1 名
目標工賃達成指導員(兼務) 1 名

第 二 旭 川 福 祉 園

(生活介護事業)

管理者(施設長)(兼務) 1 名 サービス管理者責任者(兼務) 1 名
生活支援員(常勤・非常勤、専従・兼務) 7 名
看護師(非常勤・専従) 1 名

(就労移行支援事業)

管理者(施設長)(兼務) 1 名 サービス管理者責任者(兼務) 1 名
就労支援員(兼務) 2 名 職業指導員(非常勤、専従・兼務) 2 名
生活支援員(専従) 1 名

共同生活援助(介護サービス包括型)事業

管理者(施設長)(兼務) 1 名 サービス管理者責任者(兼務) 1 名
世話人(兼務) 3 名 生活支援員(兼務) 3 名
夜間支援員(兼務) 3 名

き た の ま ち

センター長 1 名 副センター長 1 名 スタッフ 12 名

共 通

◎ 嘱託医	原 田 一 道	はらだ病院理事長
事務員 3 名	栄養士 1 名	調理員 2 名

平成26年度 相談支援内容(発達支援)

(1)発達障害児(者)年齢層	内訳	実支援人数
	0～3歳(幼児期前期)	2
	4～6歳(幼児期後期)	7
	7～12歳(小学生)	11
	13～15歳(中学生)	14
	16～18歳	22
	19～39歳	95
	40歳以上	16
	不明	21
	合計	188

(2)障害種別 (医師による診断名でカウント)	内訳	実支援人数
	自閉症	16
	アスペルガー症候群	15
	広汎性発達障害	63
	注意欠陥多動性障害(AD/HD)	19
	学習障害(LD)	0
	その他(発達性言語障害・協調運動障害等)	16
	不明(未診断含む)	59
	合計	188

(3)相談依頼者	内訳	実支援人数
	本人、家族	155
	関係機関	33
	合計	188

(4)相談方法	内訳	延支援件数
	来所	340
	訪問	26
	電話	161
	その他(FAX・メール等)	14
	合計	541

(5)相談内容 (重複可)	内訳	延支援件数
	相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	32
	現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	293
	利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	17
	診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	41
	現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	52
	進路や将来の生活に関する相談をしたい	126
	対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	26
	今後の就労について相談したい	33
	現在勤めている職場に関する相談をしたい	34
	その他	66

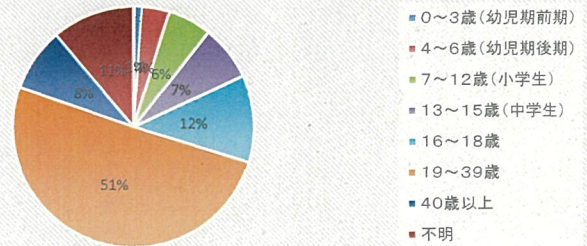
(6)医学的診断、心理的判定	内訳	実診断(判定)人数
	センターに勤務する医師が診断	0
	センター職員が心理的判定	3

(7)夜間等の緊急時保護、行動障害による一時保護	内訳	実支援人数
	行動障害による場合(実支援人数)	0
	(延支援件数)	0
	行動障害以外の場合(実支援人数)	0
	(延支援件数)	0

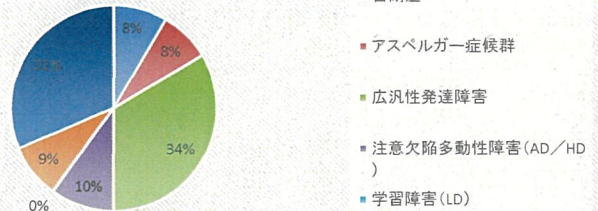
(8)連携先の機関 (重複可)	内訳	延支援件数
	保育所・幼稚園	2
	児童相談所	9
	知的障害更生相談所	1
	福祉事務所	0
	障害児(者)地域療育等支援事業実施施設	0
	保健所・保健センター	4
	児童発達支援センター	3
	障害児入所施設	0
	精神保健福祉センター	0
	医療機関	49
	教育委員会	1
	学校	23
	特別支援学校	5
	専門学校・大学	2
	相談支援事業所	79
	就労移行支援事業所	17
	就労継続事業所	16
	生活介護事業所	0
	その他のサービス事業所	61
	公共職業安定所	6
	地域障害者職業センター	4
	障害者就業・生活支援センター	18
	地域若者サポートセンター	2
	上記以外の都道府県行政機関	0
	上記以外の市町村行政機関	10
	企業等	7
	その他	25

(9)関係機関との連携内容	内訳	延支援件数
	調整会議:(8)の機関と共に実施(表1-1。(4)の件数と一致させること)	25
	機関コンサルテーション:(8)の機関に対し実施(表1-1。(5)の件数と一致させること)	38

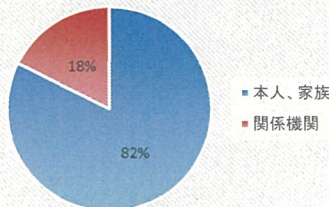
(1)発達障害児(者)年齢層



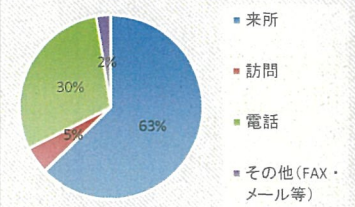
(2)障害種別
(医師による診断名でカウント)



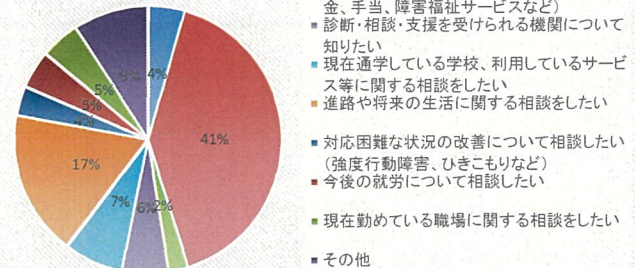
(3)相談依頼者



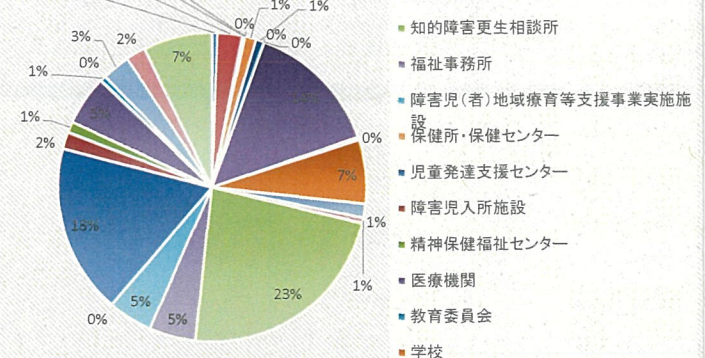
(4)相談方法



(5)相談内容
(重複可)



(8)連携先の機関
(重複可)



平成26年度 相談支援内容(就労支援)

(1)発達障害児(者)年齢層	内訳	実支援人数
18歳以下		1
19～39歳		13
40歳以上		2
不明		0
合計		16

(2)障害種別 (医師による診断名でカウント)	内訳	実支援人数
自閉症		0
アスペルガー症候群		4
広汎性発達障害		8
注意欠陥多動性障害(AD/HD)		1
学習障害(LD)		0
その他(発達性言語障害・協調運動障害等)		0
不明(未診断含む)		3
合計		16

(3)相談依頼者	内訳	実支援人数
本人、家族		10
関係機関		6
合計		16

(4)相談方法	内訳	延支援件数
来所		21
訪問		4
電話		9
その他(FAX・メール等)		0
合計		34

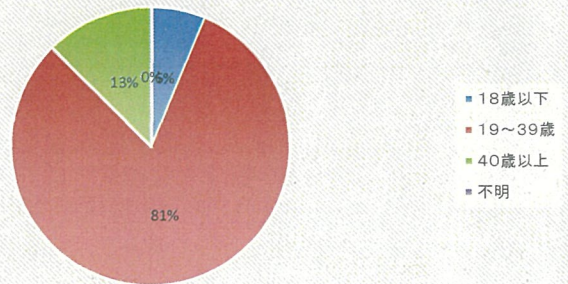
(5)相談内容 (重複可)	内訳	延支援件数
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい		1
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい		8
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)		2
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい		0
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい		0
進路や将来の生活に関する相談をしたい		8
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)		1
今後の就労について相談したい		7
現在勤めている職場に関する相談をしたい		21
その他		0

(6)連携先の機関 (重複可)	内訳	延支援件数
児童相談所		0
知的障害更生相談所		0
福祉事務所		0
障害児(者)地域療育等支援事業実施施設		0
保健所・保健センター		0
児童発達支援センター		0
障害児入所施設		0
精神保健福祉センター		0
医療機関		1
教育委員会		0
学校		0
特別支援学校		0
専門学校・大学		0
相談支援事業所		0
就労移行支援事業所		0
就労継続事業所		0
生活介護事業所		0
その他のサービス事業所		5
公共職業安定所		0
地域障害者職業センター		0
障害者就業・生活支援センター		7
地域障害者職業センター		3
地域若者サポートセンター		0
上記以外の都道府県行政機関		0
上記以外の市町村行政機関		0
企業等		2
その他		0

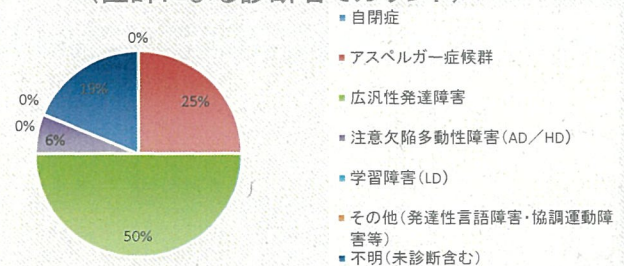
(7)関係機関との連携内容	内訳	延支援件数
調整会議(8)の機関と共に実施(表1-2、-(2)の件数と一致させること)		0
機関間コンサルテーション(8)の機関に対し実施(表1-2、-(3)の件数と一致させること)		13

(8)企業等に対する啓発	内訳	延支援件数
訪問による啓発		0
訪問以外の方法による啓発		2

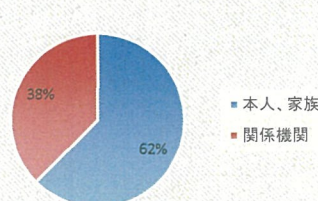
(1)発達障害児(者)年齢層



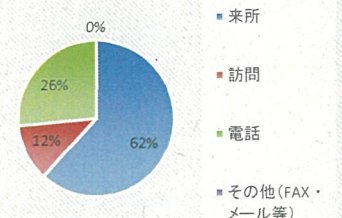
(2)障害種別
(医師による診断名でカウント)



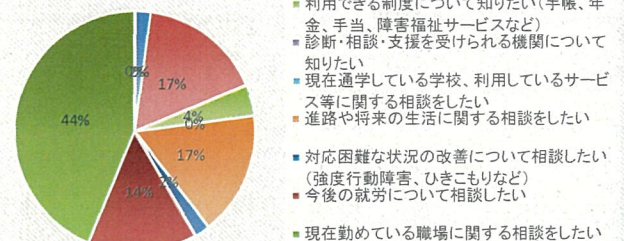
(3)相談依頼者



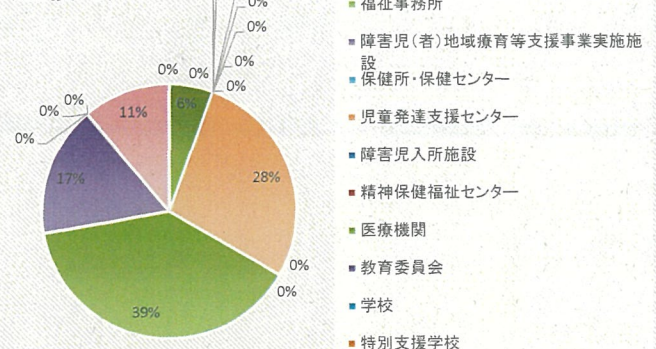
(4)相談方法



(5)相談内容
(重複可)



(6)連携先の機関
(重複可)



平成26年度 上川中南部障害者就業・生活支援センターきたのまち 実績報告

登録状況（障害種別、就業状況）

(人)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他の障害	合計
	(うち重度)		(うち重度)				
在職中	32	16	99	1	43	31	205
求職中	39	10	75	1	74	29	217
その他	14	7	80	0	24	30	148
合計	85	33	254	2	141	90	570

支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別)

(件)

センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）	474
電話・Fax・e-mail	905
職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）	1,297
家庭・入所施設への訪問	16
その他（ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等）	534
合計	3,226

職場実習のあっせん状況

(件)

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
X. 職場実習（3日以上3ヵ月以内）	0	35	12	2	49
A. 地域障害者職業センター、職場適応援助者助成金によるジョブコーチ雇用前支援	0	0	0	0	0
B. 職場適応訓練（一般、短期）	0	3	0		3
C. 障害者委託訓練「実践能力習得訓練コース」、「知識・技能習得訓練コース（職場実習組込型）」	0	0	0	0	0
D. 精神障害者社会適応訓練			0		0
E. 都道府県又は市町村が独自施策として講じている職場実習制度	0	0	0	0	0
合計	0	38	12	2	52

一般事業所への就職件数（※1ヵ月以上の雇用）

(件)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
	(うち重度)		(うち重度)				
一般（30時間以上）	5	(1)	17	(0)	7	0	29
短時間①（20時間以上30時間未満）	1	(0)	6	(0)	0	1	8
短時間②（20時間未満）	0	(0)	1	(0)	1	1	3
合計	6	(1)	24	0	8	2	40

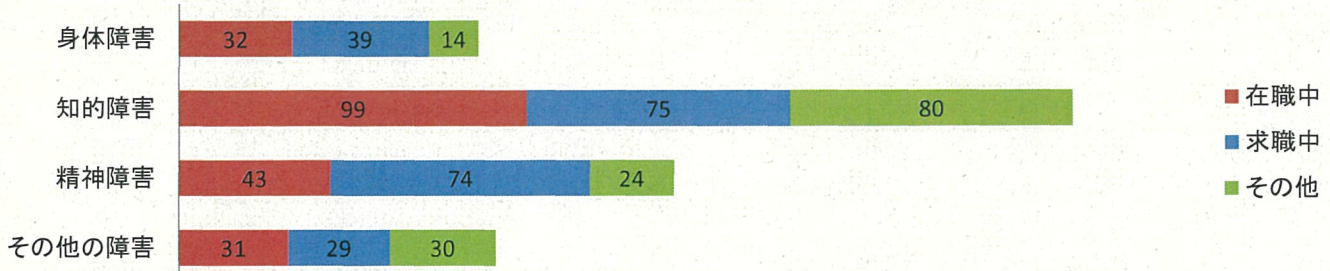
相談・支援を行った事業所数

133事業所

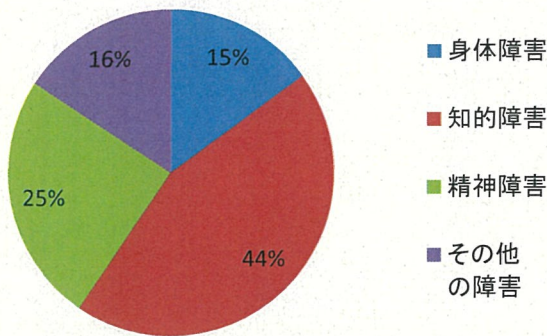
事業主相談・支援件数(手段別)

①センターへの来所	56
②電話（FAX、e-mail等を含む）	150
③企業訪問（職場開拓、職場定着支援、雇用啓発等を含む）	1,168
④その他 ※（ケース会議等を通じた支援）	34
合計	1,408

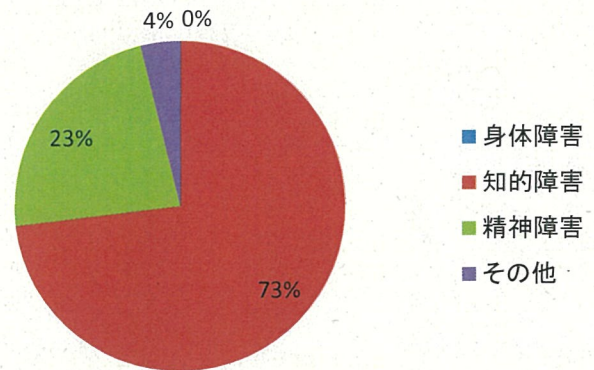
障害種別・就業状況別の支援対象障害者（登録）



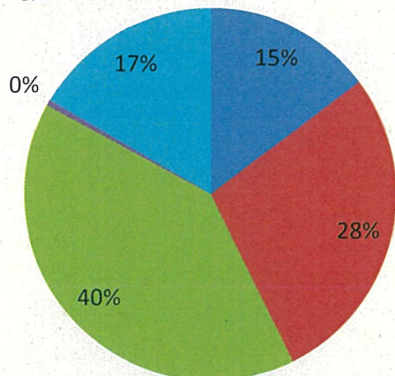
障害種別の登録割合



職場実習あっせん状況

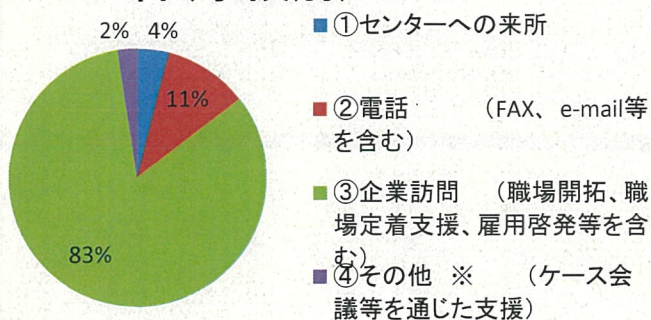


相談・支援件数



- センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）
- 電話・Fax・e-mail（本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む）
- 職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）
- 家庭・入所施設への訪問
- その他（ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等）

一般事業所に対する支援割合（手段別）



一般事業所への就職割合（障害種別）

